

狭山市議会議長
三浦和也 様

研修議員氏名

丸橋ユキ

研 修 会 報 告 書

このことについて、次のとおり報告します。

1 期 間 2023年 10月 10日 ～ 2023年 10月 12日 (2泊3日)

2 研修会名

令和5年度市町村議会議員研修 [3日間コース] 「人口減少社会における議会の役割」

3 研修会主催者

公益財団法人全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所

4 開催場所

滋賀県大津市 全国市町村国際文化研修所

5 研修会スケジュール

1日目 開講式、オリエンテーション、講義、意見交換会

2日目 講義、演習 (班別ワークショップ)

3日目 講義、閉講式

6 研修会概要

別紙のとおり



令和5年度市町村議会議員研修〔3日間コース〕

「人口減少社会における議会の役割」研修報告

2023年10月10日～12日

丸橋ユキ

【研修のねらい】

- ・ 地方行政を取り巻く現状と2040年頃にかけて顕在化する諸課題について学ぶ。
- ・ 講義、演習を通じて、人口減少社会を見据えた今後の施策について考える。
- ・ 人口減少社会における議員としての役割や議会の本来のあり方について理解を深める。

【参加者人数】 68名

【研修会内容】

1日目

■ 講義

「地方行政の現状と課題～2040年を見据えて～」武庫川女子大学経営学部教授 金崎健太郎氏

人口減少、年金、高齢化などに対する不安。人口減少を悲観的に見過ぎてはいないか？人口減少と少子化を一緒にしないことが大事。これまで私たちは人口増の中で課題をクリアしてきたが、人口減は未知のことなので怖いと思ってしまうが、人数としては1950、60年代に戻るとのこと。ただし、生産年齢人口や高齢者人口、若年比率は当時とは違うものとなる。

2022年、沖縄県が人口減に転じ、全都道府県が自然減少に。20道府県が社会増加、他は社会減少。地方創生は社会増減の人口の取り合いで、出生率を上げるものではない。

圏域マネジメントは必要になる。学校統合など。卒業生も含めれば合意形成の人数が相当なものになる。

■ 講義

『子育て世代に選ばれるまち』となるために」大阪府寝屋川市市長 広瀬慶輔氏

寝屋川市は、大阪府の東北部に位置するベッドタウンで、人口23万人。大阪万博(1970)の頃、15年間に人口が激増した。それから50年経つ現在、高齢化とインフラの老朽化が一気に押し寄せている。若い子育て世代に寝屋川を選んでもらう必要があるとして、子育て環境に力を入れている。市独自のいじめ対策「寝屋川モデル」の実施や、すべての小中学校(小学4年生から中学3年生まで)でディベート教育を取り入れるなど、とくに教育環境を良くすることに

力を入れている。また、隈研吾氏設計監修の小中一貫校の開校、市内中心部の駅前にある商業ビルに中央図書館を移転し図書館のコンセプトを変更（→利用率は倍増）等、さまざまな取り組みを重ね、その結果「本当に住みたい街大賞」にランクイン、地価も上昇したという。

〈感想〉広瀬氏は、子育て世代に選ばれること、とくに「担税力のある若い世代に選ばれる」ことが大事というが、担税力のない人に対してはどのように考えているのかと少し気になった。

2日目

■ 講義+演習

「わがまちのありたい姿（ビジョン）を考える」

千葉大学大学院社会科学研究院教授 倉阪秀史氏

「未来カルテ」※についての講義の後、演習。人口規模が同程度の自治体議員で18の班に分かれ、モデル自治体3つのうちのいずれかを担当。モデル自治体の「未来カルテ」を参照しながら、そこから読み取れることを分野ごとに付箋に書き出し、模造紙に貼付。そこから課題を見つけ、そのための対策・政策を検討するという、バックキャスト型政策形成を行った。私は、山口県周南市、岐阜県大垣市の議員と一緒に班で、埼玉県ふじみ野市をモデルに討議した。なお、3つのモデル自治体と担当班は以下の通り。



1～6班 埼玉県ふじみ野市

7～12班 兵庫県西脇市

13～18班 奈良県高取町

※未来カルテ

人口減少や高齢化に対して何も対策せず、現在の傾向が継続した場合の、産業構造や、保育、教育、医療、介護の状況、公共施設・道路、農地などの維持管理可能性、住宅の供給可能性、再生可能エネルギーによる自給可能性などの分野について、将来（2050年）の状況をシミュレートして数値で視覚化するプログラム。



未来カルテによれば、ふじみ野市の2050年は2020年比で総人口は増えている（103.7%）。しかしながら高齢者比率は著しく高くなり、また、就業人口があらゆる分野で減少する予測。私の班では高齢化にともなう対策として、教育分野と高齢者・介護分野の連携や農福連携など

の施策が挙げられた。具体的には「高齢者との交流教育」「介護施設と保育施設の連携」「教育・福祉の複合施設を作る」「認知症が当たり前の環境整備」「高齢者の孤立対策」ほか。

その後、一定時間ごとにテーブルのメンバーを入れ替えるワールドカフェ形式で討議を続け、他の班で他のモデル自治体についても考えることができた。

講堂に移動し、班ごとに壇上で3分間の発表。私の班（6班）では、私が発表した。

班によってはユニークな施策も見られ、多彩な人が話し合っただけで検討することの意義が感じられた。たいへん興味深いものだった。

3日目

■ 講義

「人口減少社会における議会の役割」 明治大学政治経済学部教授 牛山久仁彦氏

- ・ 二元代表制の実態、全体的には首長優位。→強い首長をどう民主的に統制するか。
- ・ 議会は多数決。マイノリティはネットワークを。同じ考えの議員、市民とつながる。
- ・ 市町村議会の現状。年齢構成や男女比に偏り、地域政治への関心の低下、議員成り手不足。
議員成り手不足の背景
 1. 定数削減と報酬削減の傾向
 2. 地域政治への関心低下という根本問題→自治体議員に対する住民の厳しい目線の反映
 3. 自治体議員立候補のハードルの高さ
- ・ 市議会と住民参加
- ・ 地方分権時代にふさわしい自治体議会改革の方向性
行政監視機能の強化だけではなく「議会による住民を起点とした政策立案」を。
これまで執行部が企画・立案することが当然視→能動的な政策形成・提案ができる議会へ。

【所感】

人口減少を前提として社会のあり方を考えていくべきだとかねて思っていたが、今回の講義を聞く限りではそれはすでに標準的な考え方だと感じた。圏域行政が進んでいくと思われるが、そのための住民の合意形成についても話が聞きたかった。

講義・演習は内容が濃く、独学ではなかなか得られない知見を得られた。課外でも、食事時などに他市町村議員と話をする機会を多く持つことができた。とくに、それぞれのまちが抱える課題や議会の雰囲気、議員一人ひとりの考えなど、資料を調べてもわからないようなことまで聞くことができたので、この3日間の研修に参加した意義を感じている。つながりもできたので、今後も情報交換をしながら狭山の市政に生かしていきたい。